

## C 水泳指導者講習会

改訂学習指導要領における小学校、中学校の水泳の取扱について、理論と実技の両面から研究するとともに、初心者の段階的指導、各種泳法、水難救助等の指導技術を身につけた指導者の養成をはかった。

a, 主催 文部省, 日本水泳連盟, 福島県教育委員会事務局, 福島県水泳連盟

b, 参加範囲 北海道, 青森, 岩手, 秋田, 宮城, 山形, 福島, 新潟

c, 会場 会津若松市営プール

d, 期日 7月10日・11日・12日

e, 参加者 小中学校教員 150名

f, 講師

文部省事務官	串田 正夫氏	
日本海洋協会理事	日本水泳連盟理事	谷川 慎治郎氏
東京教育大学教授	鶴岡 英吉氏	
四倉高校教諭	渡辺 邦友氏	
県水泳連盟理事	梶川 孝義氏	
同上	高橋 一郎氏	

g, 内容

(1) 講義

- 小・中学校改訂指導要領について
- 小・中学校水泳の扱いについて
- 水泳管理
- 初心者の指導法

(2) 実技

- 学年別水泳の指導の実際
- 標準泳法
- 救助法
- 初心者の指導

(3) 研究協議

- 事故防止対策について
- 水泳指導計画について
- クラブ活動と対外競技について

水泳の理論と実技は平易で分りやすく、特に初心者の指導法は有意義であった。また、海洋の知識は一般に無知でかつ関心が薄かったが、啓発させられるところ極めて大きいものがあった。

## D 研究指定校成果発表（昭和33・34年度）

昭和33年・34年度にわたる2ケ年の研究のまとめを8校がその努力の結果をまとめ、発表会を行った。改訂指導要領発表の年に指定校として研究にのりだしたが、研究テーマをどのようにして手始め、どこに目標をおいて、どんな研究態勢を整え、地域の学校にはどんな協力を得て進めるかについては各学校とも非常に苦心が払われた。しかし、いずれの学校においても真剣そのもので、常に学校教育全体の立場から、体育科教育の向上に鋭意精進されたため、第2年目の成果発表までには幾多のセンターとしての役割を果たしたことは本県体育科教育に多大なる貢献をなした。

a, 共通テーマ

(1) 保健体育の指導と、道徳教育との関連をどのようにしてゆくか。

(2) 児童生徒の発達段階に応じた到達目標をどのように設定したらよいか。

b, 各学校のテーマと発表

(1) 石城郡好間村立好間第一小学校

○学年別基礎能力と向上への具体的方策

○校内における保健活動のありかた

○発表会 7月14日

(2) 耶麻郡猪苗代町立吾妻第一小学校

○環境を克服しての体育指導

○保健体育の一体的指導

○発達段階に応じたスキーの指導

○発表会 10月5日

(3) 郡山市立芳山小学校

○巧技（跳箱・鉄棒）指導をどのようにするか。

○発表会 10月12日

(4) 平市立草野小学校

○徒手体操の系統的指導法

○発達段階に応じた集団行動の様式と指導

○系統的指導と到達目標の設定

○農村地区における保健管理

○発表会 10月15日

(5) 白河市立白河第一小学校

○体育諸能力の実態に立った指導とその到達目標へのはぐくみ

○発育と栄養はどうなっているか。

○発表会 10月17日

(6) 相馬市立中村第二小学校

○望ましい性格行動をめざす体育指導

○発表会 11月5日

(7) 田村郡滝根町立滝根中学校

○運動能力をいかにして向上させるか。

○発表会 9月26日

(8) 東白川郡棚倉町立近津中学校

○器械運動ダンスの系統的指導法

○発表会 10月24日

## E 研究指定校中間発表

1出張所1校の研究学校を設置して、各管内の体育科教育の向上を推進するため、前項の8校の外に昭和34年・35年にわたる研究校を設置した。これらの学校では第1年目であるので、中間発表の形で一応の研究の緒を公開し、地方のセンターとしての責務を果たしつつある。

a, 共通研究テーマ

(1) グループ学習は、どのようにすればよいか。

(2) 体育における保健指導はどのようにすればよいか。

b, 各学校のテーマと中間発表

(1) 伊達郡保原町立大田小学校

○体育における児童の意欲的な活動を増すにはどうした